

## 2016 年度 小委員会活動成果報告

(2017 年 2 月 3 日作成)

小委員会名	設計用気象データ小委員会		主 査 名：松本 真一 就任年月：2015 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (建築設備運営委員会)		委員長名：羽山 広文 主 査 名：赤司 泰義
設 置 期 間	2015 年 4 月 ～ 2017 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	(1) 紫外線 UV-A, UV-B の推定方法の確立とデータ整理 (2) 1 分値気象データの整備 (3) 30 年(1981～2010)拡張アメダス気象データの整理に向けた検討 (4) 設計用気象データの整理及び、建築気候マップの整理に向けた検討 (5) 東南アジアの気象データ整理		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無し		
	主査：松本真一(秋田県立大学) 幹事：細淵勇人(秋田県立大学) 委員：赤坂 裕(鹿児島大学) 荒井良延(鹿島建設) 井川憲男(大阪市立大学) 永村悦子(園田学園大学) 永村一雄(大阪市立大学) 菊池卓郎(竹中工務店) 木下泰斗(日本板硝子) 窪田真樹(鹿児島高専) 斉藤孝一郎(YKK AP) 二宮秀與(鹿児島大学) 武田和大(鹿児島高専) 中山哲士(岡山理科大学) 福留伸高(東京工芸大学)		
設置 WG (WG 名：目的)	無し		
2016 年度予算	90,000 円	ホームページ公開の有無：無し 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	無し
講習会	無し
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	無し
大会研究集会	無し
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	無し
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	当初計画のうち、特に、「(5)東南アジアの気象データ整理」について大きな進展・達成があったと考える。シンガポール、マレーシアに観測拠点を設置し、観測データの収集、分析を行った。今後も観測の継続・データ分析を行い、気象データの整備を行ってゆく予定である。
委員会活動の問題点 ・課題	最近では関連の委員間のみで議論している感が強く、活動成果の学会全体への還元が問題点・課題と考えている。このため、2016 年度大会にて「気象データの活用と新たな展開 -拡張アメダス気象データを中心に-」をテーマに OS を開催し、議論の場とした。

- \* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- \* 表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。
- \* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- \* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

## 2016 年度 小委員会活動 自己評価

### (~~中間年度評価~~・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">A</span> <span>B</span> <span>C</span> <span>D</span> </div>
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>以下の活動について特筆すべき成果を上げたと考え、総合評価「A」とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> <b>・東南アジアの気象データ整理</b>            発展著しく、建築設計において需要が見込まれる東南アジア地域の気象観測及びデータ整備を目的として、東南アジア（シンガポール、マレーシア）に2地点の観測拠点を設置し、気象観測を開始した。            通常、現地では行われていない詳細な観測を行うため、1) 直散分離の為の全天日射量・天空日射量の同時測定、2) 日射量が大きい地域における、日射による健康被害、建材劣化などの影響を明らかにするための UV-A、B 測定、3) 緑化建築などの省エネ建築物のエネルギー評価に対応することを目的とした光合成有効放射量（PAR）の測定を可能とする観測システムを現地研究者との連携のもと構築した。            今後も、観測データの収集を継続し、分析を進めてゆく予定である。我が国の拡張アメダス気象データのように、建築設計に利用可能なデータとして整備する第一歩を踏み出したものと考えられ、評価に値すると判断した。         </li> <li> <b>・オーガナイズドセッションの実施</b>            上記「委員会活動の問題点・課題」であげた通り、最近では関連の委員間のみで議論している感が強く、活動成果の学会全体への還元のためには、大会などでの研究発表の場（オーガナイズドセッション等）や、シンポジウムを開催するなどして、議論の場を設け、活性化(充実)を図る必要があると考えていた。            そこで、2016年度大会にて「気象データの活用と新たな展開 -拡張アメダス気象データを中心に-」をテーマにオーガナイズドセッションを実施した。オーガナイズドセッションでは、本小委員会委員以外の研究発表も見られ、活発な議論の場となった。これについても評価に値すると判断した。         </li> </ul> <p style="text-align: right;">以上</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。